ジール城の恐怖

ジール城の恐怖
一幕物
バロス=クル　著

登場人物
クラヴィデス、帝国軍の衛兵隊長 シロディール民
アナーラ、ダンマーの侍女
ユリス、帝国軍の衛兵副隊長 アルゴニアン
ゾラッサ、若きアルゴニアン魔術師

深夜。洗練された家具やつづれ織りで十分に飾られている、スキャス・アヌド城の玄関大広間で芝居は幕を開ける。松明だけが唯一の明かりをもたらしている。広間の中心には、城への正面入り口である大きな鉄の扉が立っている。上の踊り場へと続く階段は扉の横にある。舞台左手には、今は閉じられている図書室への扉がある。舞台右手には、もうすこしで部屋の天井に届く、20フィートもの巨大な鎧の1式が立っている。誰も見えないが、女性の歌声が図書室の扉から伝わってくる。

正面扉を叩く大きな音。歌をやめる女性。図書室への扉が開き、何の変哲もない侍女、アナーラが部屋から出てきて正面扉へと急ぐ。帝国軍の制服をまとった見栄えの良いクラヴィデスが目の前に立つ。

アナーラ: こんばんは。

クラヴィデス: こんばんは。ご主人はいるかね?

アナーラ: いいえ、不在です。いるのは私だけです。私のご主人様であるセデゥーラ・ケナ・テルヴァンニ・ホルダルフ・ジール様は避寒地にいます。私で何かのお役にたてますか?

クラヴィデス: かもしれない。入ってもいいかね?

アナーラ: どうぞ、お入りください。フリンでもお持ちしましょうか?

クラヴィデスは広間に入り、あたりを見回す。

クラヴィデス: いや、結構。名前は?

アナーラ: アナーラです。

クラヴィデス: アナーラ、ご主人はいつスキャス・アヌドを発った?

アナーラ: 2週間以上前です。なので、私しか城にはいないのです。閣下にお仕えする他の召使いや奴隷たちはみんなご主人様に同行しています。何かあったのですか?

クラヴィデス：うむ、あったのだ。サル・カリファという名のアッシュランダーを知っているかね？

アナーラ：いいえ。知りません。

クラヴィデス：では、これからも知ることはないな。彼は死んだのだよ。数時間前、アッシュランドで凍傷によって死にかけているところを発見されたのだ。彼は狂乱していて何を言っているのかほとんど理解できなかったが、最後の言葉は「城」と「ジール」だった。

アナーラ：夏季に凍傷によって死ぬ、アッシュランドにてですか？ 妙な事が起こるものですね。ご主人様がその人を知っていた可能性はありますが、彼はアッシュランダーでご主人様はテルヴァンニー族、失礼な言いかたですが、お友達ではなかったと思います。

クラヴィデス：あれがご主人の図書室？ 中を見てもいいかね？

アナーラ：どうぞ、どこへでもご自由に。何も隠すものはありません。私たちは帝都の忠臣です。

クラヴィデス：テルヴァンニは皆、そうであると聞いている。

（劇作家からの覚え書き：この台詞は皮肉抜きで読まれるべきである。観客の笑いを信じて-- 地元の政治情勢に関係なく、失敗はない）

クラヴィデスは図書室に入り、本を見越す。

クラヴィデス：図書室はほこりを払う必要があるな。

アナーラ：はい。ちょうどあなた様がいらっしゃった時に行なっていたのです。

クラヴィデス：それには感謝する。もし終わっていたら、つい最近持ち去られたかなり大きな本があった場所の、ほこりの付いていないところに気が付かなかったであろう。あなたのご主人は、どうやらウィザードらしいな。

アナーラ：いいえ。というか、彼は研究熱心ですが、もし呪文を唱えることがウィザードを意味するなら、彼はまったく唱えません。彼はケナで、大学なども出ています。あの、今になって考えると、昨日、大学から他のケナがやってきて、何冊か本を借りていきました。ご主人様の友人なので、問題ないかと思っておりました。

クラヴィデス：そのケナ、彼の名前はワーヴィム？

アナーラ：だったかも知れません。覚えていません。

クラヴィデス：大学に、我々が昨夜拘束したケナ・ワーヴィムという名の疑わしい死霊術師がいる。彼が大学で何をしていたかは分からないが、違法行為であったことは間違いない。本を借りたのはそのケナか？ 足が萎れて不自由な、小さい男？

アナーラ：いいえ、その人は昨日のケナとは違います。彼は大きくて、しっかりと歩いていたのを見ました。

クラヴィデス：家の他の場所も見させてもらうぞ。

クラヴィデスは階段を登り、次の台詞を踊り場、および上の部屋から言う。アナーラは下の階の整頓を続け、床を磨くために背もたれの高い長椅子を鎧の前へと移動する。

アナーラ：何を探しているのか聞いてもいいですか？お手伝いできるかもしれません。

クラヴィデス：これが城のすべての部屋かね？秘密の通路はないのかね？

アナーラ（笑いながら）：なぜ、セデゥーラ・ケナ・テルヴァンニ・ホルダルフ・ジール様が秘密の通路を必要とするのでしょう？

クラヴィデス（鎧を見ながら）：あなたのご主人は大物だからな。

アナーラ（笑いながら）：からかうのはやめてくださいな。あの巨大な鎧はただの飾りです。ご主人様が10年前にあの巨人を倒し、その記念品として取っておかれているのです。

クラヴィデス：そうだ、それは初めてここに赴任してきたときに聞いた覚えがある。巨人を殺したのがジールという名字のものであったのは知っていたが、名がホルダルフだったとは思わなかった。記憶とは薄れていくのだな。巨人の名は何であったかな？

アナーラ：残念ながら覚えておりません。

クラヴィデス：私は覚えている。トルファングだ。「トルファングの盾から出た」

アナーラ：何のことでしょう。トルファングの盾？

クラヴィデスは階段を駆け下り、鎧を調べる。

クラヴィデス：トルファングの盾から出られたようなことをサル・カリファが言っていた。気が狂い、取りとめのない話をしていたと思っていたのだが。

アナーラ：ですがその通り、それは盾など持っていません。

クラヴィデスが背もたれの高い長椅子を動かすと、鎧の基部から据え付けられた大きな盾が見えた。

クラヴィデス：持っているね。あなたがあの長椅子で覆ったのだ。

アナーラ：わざとやったのではありません！掃除をしていただけです！毎日あの鎧を見ていますが、ああ、神よ、誓ってその盾に気付いたことはありません！

クラヴィデス：もういいアナーラ、信じるよ。

クラヴィデスが盾を押すと、それは後退して下への地下道をあらわにした。

クラヴィデス：セデゥーラ・ケナ・テルヴァンニ・ホルダルフ・ジールには秘密の通路が必要なようだな。松明を持ってきてくれるか？

アナーラ：ああ、恐ろしい、そんなのは見たことがありません！

アナーラは壁から松明を外し、クラヴィデスに手渡す。クラヴィデスは地下道へと入って行く。

クラヴィデス：ここで待つように。

アナーラはクラヴィデスが地下道へと消えて行くのを見守る。彼女は動揺しているように見え、ついには正面扉へと走っていく。扉を開けると、入り口には帝国軍の衛兵副隊長であるアルゴニアンのユリスが立っていた。彼女は叫ぶ。

ユリス：驚かせて申し訳ありません。

アナーラ：今は駄目！どこかへ行って！

ユリス：お嬢さん、隊長はそれをあまり快くは思わないと思います。

アナーラ：あなたは…　隊長殿と一緒ですか？　ああ、よかった。

クラヴィデスは顔面蒼白で地下通路から出てくる。話すまでしばらく時間がかかる。

ユリス：隊長？　下には何が？

クラヴィデス(アナーラへ向かって)：あなたのご主人が死霊術師であることを知っていたか？　地下室が死体で溢れていることも？

アナーラは気を失う。ユリスが彼女を長椅子まで運び、横たえる。

ユリス：隊長、見せてください。

クラヴィデス：慌てなくてもすぐに見られるさ。死体を運び出すには駐屯地にいる全兵士が必要だ。ユリス、私はたくさんの戦闘を見てきたが、こんなのは見たことがない。2体として同じものがない。カジート、スロード、ダンマー、シロディール、ブレトン、ノルドたちが、生きたまま焼かれ、毒を飲まされ、感電させられ、溶かされ、バラバラにされ、内蔵を出され、切り刻まれた上で縫い合わされているんだよ。

ユリス：それが、脱出したアッシュランダーの身に起きたというのですか？

クラヴィデス：　分からない。なぜこのようなことをするのだ、ユリス？

扉を叩く音。クラヴィデスが出る。若いアルゴニアン女性のゾラッサが小包と手紙を携えて立っている。

ゾラッサ：　おはようございます、あなたはジール卿ではありませんね？

クラヴィデス：　違う。それは何だ。

ゾラッサ：　閣下に配達するはずの小包と手紙です。閣下はすぐ戻りますか？

クラヴィデス：　いや、戻らないだろう。差出人は誰だ？

ゾラッサ：　大学にいる私の講師、ケマ・ワーヴィムです。彼は足が不自由なので、これらを閣下に届けるよう言われました。正直に言いますと、本当は昨夜届けるはずだったのですが、忙しくて。

ユリス：　おはよう、同族の妹よ。我々が小包を閣下に渡しましょう。

ゾラッサ：　ごきげんよう、同族の兄よ。りりしきアルゴニアンがスキャス・アヌドにいるとは聞いていました。残念ながら、小包は閣下の手に直接届けると、ケマ・ワーヴィムに約束してしまいましたので。もう遅れていますし、置いて行くわけ--

クラヴィデス：　お嬢さん、我々は帝国軍の衛兵だ。私たちがその小包と手紙を預かる。

ゾラッサは渋々とクラヴィデスに手紙と小包を渡す。帰るために逆を向く。

ユリス：　もしからしたらお話を伺うかもしれませんが、大学にいますか？

ゾラッサ：　はい。お元気で、兄よ。

ユリス：　良い夜を、妹よ。

ゾラッサが退場するなか、クラヴィデスが小包を開ける。何枚ものバラ紙が挟まった本である。

クラヴィデス：　どうやら紛失していた本を見つけたようだ。我々のこの手に届けられるとはな。

クラヴィデスがその本を黙読し始める。

ユリス（満足そうに、自分に話しかける）：　スキャス・アヌドにアルゴニアンがもう1人。しかも可愛い。彼女に対してあまり無礼でなかったならいいのだけれど。もうツルツルとした濡れ肌の女性はうんざりだ。非番の時に会えたら最高なのだが。

ユリスは自分に話しかけながら、手紙の封を切り読む。

ユリス(続く)：彼女は私と同様、南からのようだ。北ブラック・マーシュからのアルゴニアンは… その… アレだ…

ユリスは読み続け、その手紙に立ちすくむ。クラヴィデスは本の最後へと飛ばし、最終章を読む。

クラヴィデス(読み上げる)：黒のインクで、「カジート男性は簡単な雷の呪文に対しても驚くほどに低い耐性を見せたが、中位の酸の呪文をゆっくりと数日間にわたってかけることで、興味深い生理的な結果を得た」余白部分に赤のインクで、「ああ、なるほど。酸の呪文は被験者の全体に均一にかけられたのですか?」黒のインクで、「ノルド女性は16時間の冷気の呪文にさらされ、最終的には結晶化して仮死状態になり、それが原因となって息絶えた。ノルド男性もアッシュランダー女性も違った。彼らはさらに早い段階で昏睡状態に陥ったが、後に回復した。その後アッシュランダーは脱出を試みたが、拘束した。ノルドはその後、簡単な炎の呪文に対して興味深い過剰な化学反応を起こして息絶えた。付随の図解を参照ください」赤のインクで、「ああ、なるほど。腫れと損傷の傾向が何らかの内面燃焼を示唆していますね、もしかしたら、長い期間の冷気の後の短い炎の発射によって引き起こされたのかもしれませんね。実際に実験を見にいけなくて残念ですが、素晴らしい記録に賛辞を述べます」黒のインクで、「侍女アナーラにゆっくりと被毒させることを提案してくれてありがとうございます。提案してもらった用量は、ゆっくりと彼女の記憶を巧妙に侵食する、非常に興味深い結果を得ました。用量を急激に増やし、彼女が気付くまでどれくらいの期間がかかるかを見るつもりです。そういえば、アルゴニアンの被験者がいなくて残念ですが、奴隷商人が秋には健康な試験体を約束してくれました。彼らの代謝作用をエルフや人間と比べてみたいものです。私の理論では、中位の連続した雷の呪文の波は、シロディール女性やあの巨人のように、アルゴニアンにとって少なくとも数時間が致命的なラインであると感じています」赤のインクで、「秋まで待たなければならないのは残念です」

ユリス(手紙を読み上げる)：赤のインクで、「このアルゴニアンをどうぞ。結果を教えてください」これは署名されています。「ケマ・ワーヴィム」

クラヴィデス：ああ、神キナレスよ、これは死霊術ではない。これは破壊だ。ケマ・ワーヴィムとケナ・テルヴァンニ・ホルダルフ・ジールは死の実験を行なっていたのではなく、魔法による拷問の限界を調べていたのだ。

ユリス：この手紙はケナ・テルヴァンニ・ホルダルフ・ジールに宛てられていません。宛先は、セデューラ・アイアチラ・ジールです。彼の妻でしょうか?

クラヴィデス：アイアチラ。その名前こそが巨人殺しに関連して聞いたジール家のテルヴァンニだ。侍女をここから連れ出さなければ。彼女は治癒師に行かなければならん。

クラヴィデスがアナーラを起こす。混乱している様子である。

アナーラ：何が起きたのですか? どちらさまですか?

クラヴィデス：心配はいらない、すべて大丈夫だ。あなたを治癒師へ連れて行く。

ユリス：上着は必要ですか、アイアチラ?

アナーラ：いいえ、ありがとう。寒くはないです--

アナーラ/アイアチラは止まり、捕まったことに気付く。クラヴィデスとユリスは剣の鞘を払う。

クラヴィデス：閣下、指に黒のインクが着いています。

ユリス：扉で私を見たときに、あなたの友人であるワーヴィムが送ってきたアルゴニアンだと思った。だからあなたは、「今は駄目！どこかへ行って!」と言ったのですね。

アナーラ/アイアチラ：あなたはアナーラよりも観察力がありますね。彼女は、私が毒の呪文を3倍にして、私が観測した感じでは非常に苦しみながら息絶えるときでさえ、何が起きているのかが完全に分かっていませんでした。

ユリス：私には最初に何をかけるつもりでしたか、雷、それとも炎?

アナーラ/アイアチラ：雷。炎は予測しづらい。

彼女が話している最中、松明の炎が消される。舞台は完全な暗闇。

争う音がして、剣が音をたてる。突然、稲妻の閃光が走り、沈黙に包まれる。暗闇の中からアナーラ／アイアチラが話す。

アナーラ/アイアチラ：非常に興味深い。

幕が下りるなか、さらにいくつかの雷の閃光が走る。

ジール城の恐怖

FormId	skyrim.esm:01AFEC
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01AFEC
Editor ID	SkillDestruction1
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyDestructionBook
Value (gold)	55
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	Skill: 破壊
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook, GiftWizardSpecial
Locations	7
Leveled lists	0
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.